

環境農業新聞購読方法

年3,000円
毎月15日発行
FAX、メールでお申し込み下さい。
郵便振替口座 00150-2-290578

愛と感謝の気持ちで生産

第14回日本の農業と食を考えるシンポジウム

食料危機を乗り越える鍵は「豊受式」自然農にあり

三助の精神で農業を

由井寅子代表、基調講演



由井代表

第14回日本の農業と食を考えるシンポジウムの基調講演は「食料危機を乗り越える鍵は『豊受式』自然農にあり」をテーマに日本豊受自然農の由井寅子代表が行った。午前中に静岡県伊豆の国市金谷地区でオープン二

ングセレモニーを終えて今度は昼休憩後の午後の部には、いきなり和服に着替えて東京会場に登場し参加者からは驚きの声があがった。基調講演で由井代表は、多くの人は食料危機が目前に迫っているなんて思っていない。食料危機は意図的、計画的に引き起こされることも指摘、全米で相次いだ超大型食品加工施設等の火災等を例に出しながら述べ、食料などの備蓄

の重要性、自ら食料生産を行うことを提案した。「解決策を提示せずに、危機を煽るようなことはしない」という由井代表の方針の下、問題提起と共に豊受式解決策を提案した。

「田んぼは日本人の心を育て、アイデンティティを育てる。その土地でできたものを食べることでその土地の人間となるのだ」として「田んぼに住む生き物たち、田んぼを蝗害から守り、その死骸が肥料となっていく」とも。

「政府は食料危機が迫っているのに、国のために何かやってくれていないのか」と話した。由井代表は食料危機に備え、備蓄の重要性を訴え、三助の精神について語った。

「政府は食料危機が迫っているのに、国のために何かやってくれていないのか」と話した。由井代表は食料危機に備え、備蓄の重要性を訴え、三助の精神について語った。

「政府は食料危機が迫っているのに、国のために何かやってくれていないのか」と話した。由井代表は食料危機に備え、備蓄の重要性を訴え、三助の精神について語った。

「政府は食料危機が迫っているのに、国のために何かやってくれていないのか」と話した。由井代表は食料危機に備え、備蓄の重要性を訴え、三助の精神について語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

「食料危機が招く飢餓について、口に入るものが無くなればどうなるか。その悲惨な状況を話しながら重要なことは在来種固定の種と土(土壌菌)で、豊受自然農は栽培ホックス等を提供していく」と語った。

生産、加工で持ち味発揮

豊受スタッフフリレートーク

日本豊受自然農スタッフフリレートークが行われた。

に近い形で、特徴や収穫時期、収穫方法が違っても、時期を逃さないよう植物の良い状態のものを収穫し、低温乾燥で植物の酵素が生きたローハーブになっていきます」と語った。

「主要穀物であるお米の担当で豊受米を無農薬、無化学肥料で育てています。金谷は数年前まで耕作されなくなり、荒れていくばかりの農村でしたが、現在はエキネン

アと田んぼが光り輝く美しい景観になりました。豊受の田んぼには、カエル、アメンボや珍しいカブトエビや豊年エビ、トンボになる前のヤゴもいます。そして今年天然記念物のモリアオカエルがいます。多様な生き物と人が

共生している農村や里山がこの地区、これからも豊受の自然農による地域貢献に携わって行きたい」と語った。

「私達豊受は、自然から頂いた命を健全な状態で次世代へ引き継いでいく、という使命に誇りを持ち、食べる人の心と身体、魂が癒され、生きる喜びを感じて頂けるよう

「一切の食材を無駄にしないで余す所なく使用する」事を目標に加工しています。

「豊受式自然農と何か? という事で、無農薬、御古菌の入った堆肥を使う事、私が命をかけて行っている自家採種。また、なぜ命がけでも自家採種にこだわるのか? という事で、F1種や遺伝子組み換えの種と豊受自然農種の違いを説明した。

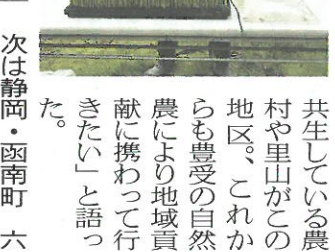
「大夏の収穫は2週間ほど前に全て刈取りました。今回は梅雨時期の刈り取りに重ならない様にしたい。また、田中山の畑は日当たり、風当たり、水はけ、土質も違うので、それぞれに適した栽培を心がけ、麦、大豆栽培の循環サイクルにより良い環境作りに向けて努力していきます」と語った。



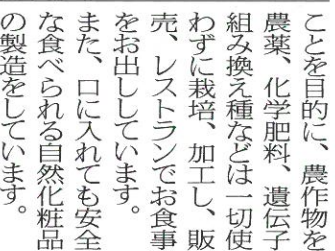
豊受スタッフ



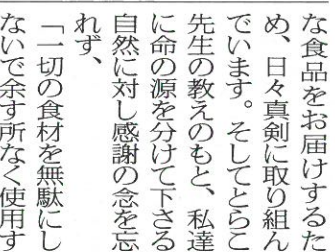
豊受スタッフ



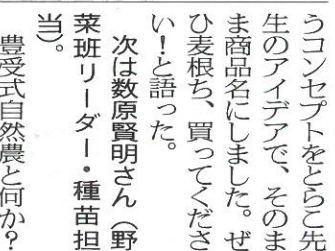
豊受スタッフ



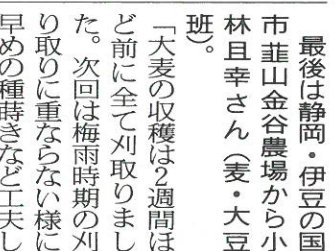
豊受スタッフ



豊受スタッフ



豊受スタッフ



豊受スタッフ

北海道・洞爺農場の澤田美史さん(加工担当)は「洞爺農場のハーブはマザーチンクチャーの原料、ハーブ蒸留水、精油、ハーブの加工品になっています。50種類から60種類を栽培、一番自然

場りター・種苗担当)は「洞爺農場は原野を開

拓してできた畑で、ハーブや野菜の栽培し、自家採種を続けています。この土地にある植物は凄いの生命力で、ハーブは原種に近く厳しい環境で育つことでファイトケミカル豊富な質の高いものになり厳選し整えています」と語った。

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

次は静岡・伊豆の国市

「伊豆の国市 豊受式都市構想」が進められた。日本豊受自然農は耕作放棄地を復活させ、食料危機に備えて、農業生産に力を注ぐとしており、さらに経営面積を拡大させ、自然農を展開していく意向だ。

日本豊受自然農は、小高い山間の函南町六本松地区の圃場から伊豆の国市の平野部などに拡大し荒れ地化した耕作放棄地を、時間をかけて素晴らしい農地に蘇えさせ、思う存分に農業生産を行い、一層、6次産業化を進めていくだろう。

その決意がみなぎった由井寅子代表の基調講演であった。

2千名が試聴した今回のシンポジウムの記録動画は「とうけつTV」webにて過去の由井代表の講演などとともに全編無料で視聴可能。参加者の声や由井代表の呼びかけなどでベランダ、家庭菜園などから取り組みを始めた皆さんの自然農体験レポートはシンポジウム特設サイトから閲覧できる。